



言語発達の縦断的研究 (2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2012-11-07 キーワード: 作成者: 藤友, 雄暉 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00003845

言語発達の縦断的研究（2）

藤 友 雄 暉

目 的

藤友(1990)⁽⁴⁾は、一人の女兒の1歳3か月(1978年12月29日)録画による30分のビデオカセットテープをおこして、その発話を文字化した。そして、その資料を分析することにより、言語発達について研究した。

本稿は、同じ対象児の1歳9か月(1979年6月29日)録画による30分のビデオカセットテープをおこして、その発話を文字化して、その資料を分析することにより、言語発達の縦断的研究をなすことを目的とする。

尚(16)1歳4か月(1979年1月28日)録画

(17)1歳5か月(1979年2月28日)録画

(18)1歳6か月(1979年3月29日)録画

(19)1歳7か月(1979年4月29日)録画

(20)1歳8か月(1979年5月29日)録画

の、5本の30分のビデオカセットテープによる資料については、報告を割愛した。

結 果

資料B(21)1歳9か月(1979年6月29日)録画

30分のビデオカセットテープがおこされ、M児の発話に通し番号が打たれた。

「資料B(21)1歳9か月」の記録

I. 遊び(4分)

居間で、玩具の輪などで遊んでいる。最初は、床に座って遊んでいたが、途中、立ち上がり、そして、また、床に座る。

1「イヤーン」(思い通りにならなくて)

2「アッ ウーン」(床に落ちた輪をひろい集め)

母「まほちゃん ごはん食べよう。うん まほちゃん ごはん食べよう。まほちゃん おいで あっできた できた はい いらっしゃい」

3「アー」(答えて)

母「うへん」(答えを反復するように)

父「ママの所に、はいて、持って行ってちょうだい。はいて、ママ、はいて」

4「イヤーン」

II. 食事 (6分)

居間で、母親のひざの上に座って、食べたいものを指さして、母親に食べさせてもらっている。途中から、母親が手にしていたはしを自分で持って、母親に手伝ってもらいながら食べる。はしは掌で握る握りばしの状態である。

5「ウーン ウッ」(台所の方を指さす。母親は台所へ行き、しょう油を持って来て、少しかけてやる)

6「アッ ウーン」(また、台所を指さして)

7「アッ ウーン エー ウン」(そして、台所へ自分で立って行く)

母「食べたくない」(ビデオカメラを手にしている父親の方を見て、報告するように)

M児、もどって来て、母親のひざの上に座って、食べさせてもらっている。

8「アッ」(口を開けて)

母「あっ おっこっちゃった」

食べたい物を次々と指さす。自分ではしを持ち、おわんに入ったみそ汁の豆腐を食べている。

9「ンタ オッ」

母「おとうふ」

10「ミン」(みそ汁 と言おうとしているのか?)

母「うん おとうふ」(豆腐のことだと思っている)

11「ブン ブン ミン」

母「プリンみたい これおとうふ」

母「これがいいの」

12「ダアー」

母「大根」

13「ダア ダ」

母「大根 からい 大根からかった」

自分ではしを持ち、ご飯を食べている。

14「アチャー」

母「アチャー どうしましょう」

III. 遊び (10分)

居間で、床に座って、母親と対面状態で絵本を介して

IIIの1. 絵本「せかい いち おおきな うち」レオ・レオニ作 谷川俊太郎訳 好学社 1969年
かたつむりを、うちと表現した絵本で、M児は、かたつむりのことを、オウチと言ってなれ親しんでいる。

(表紙)

15「オウチ」(好きな絵本を前にして、喜んで)

母「おうちね」(と、反復してあげる)

(中表紙)

16「オウチ」(好きな絵本を前にして、喜んで)

母「おうち」(と、反復してあげる)

17「オウチ」(と、くり返す)

- (キャベツが中央に大きく描かれ、そこに、かたつむりが5匹いる)
母「これは」(と、M児に尋ねる。M児はかたつむりを指さす。かたつむり捜しの遊びをしている)
(キャベツが中央に大きく描かれ、そこに、親子のかたつむりが2匹いる)
母「おうち」(と、M児に尋ねる。M児はかたつむりを指さす)
(左から右へ、大きく描かれたキャベツに、子どものかたつむりが1匹いる)
母「まほちゃん、こっちおいで」(と言いながら、床に座って対面状態だったM児を、母親はひざに抱く)
18「オウチ」(かたつむりを指さして)
母「おうち」(と、反復してあげる)
(右から左へ、大きく描かれたキャベツの左の端の方で、子どものかたつむりが、大きくなり始めている)
19「イヤー」(と言いながら、母親のひざの所から立って父親の方へ来る。もう、だっこされることを余り好まない年齢になって来ている)
父「一番最初のでいいよ」(と、母親に言う)
20「イヤー」
父「一番最初ので」(と、母親にくり返す)
21「イヤー」
母「まほちゃん おいで」
母「おうちは どんどん おおきく なった。みんなは いった。たしかに きみの ちは おおきいね」(と読む)
(キャベツの葉の上で、子どものかたつむりが、左画面いっぱい大きくなっている)
母「ちびかたつむりは あいかわらず からだを のぼしたり ちぢめたり」(と読む)
(子どものかたつむりは、右画面の方まで大きくなっている)
母「おまけに しっぽを ぶるぶる ふって つのかざりまで くっつけた」(と読む)
(見開きの画面いっぱいに、かたつむりのからの部分が描かれている)
母「そのうえ おしたり ひっぱったり」(と読む)
22「オウチ」(かたつむりを指さして)
(かたつむりの上を、ちょうちょうが飛んでいる)
母「ちょうちょうたちが とんできた。みて! おとぎのおしろよ!」(と読む)
(左画面にキャベツの葉の上のかたつむり、右画面に5匹のかえるが描かれている)
母「かえるの いっかが とおりかかって めを まんまるくした」(と読む)
(左画面に大きくなったかたつむりと、食べつくされたキャベツの茎が描かれている)
23「オウチ」(かたつむりを指さして)
母「はっぱを ぜんぶ たべつくし くきしか のこらなくなった あるひ」(と読む)
(かたつむりのからが、壊れはじめている)
母「あっ おうちこわれちゃった」
(キャベツが中央に大きく描かれ、そこに、親子のかたつむりが2匹いる)
母「ちびかたつむり どうしただろうね」
(森の中を行く、かたつむりが左画面に1匹描かれている)
母「あっ おうち どこだ」(とたずねられたM児が、かたつむりを指さすと)
母「おうちあった」(と応じる)

(木の根本に、かたつむりが1匹描かれている)

母「おうち どこだ」(とまどっているM児に)

母「むずかしいな わかんないな みえないね」

母「ここだ あった」(かたつむりを指さして)

(左画面に、対面状態でかたつむりが2匹描かれている)

母「おわり」(M児は、かたつむりを指さす)

母「うん おうち」(と答えてやる)

24「オウチ」(かたつむりを指さして)

(裏表紙)

母「おわり」

25「オウチ」(かたつむりを指さして)

Ⅲの2. 絵本「わたしのワンピース」にしまきかやこ作 こぐま社 1969年

母「わたしのワンピー」

26「ス」(語尾の部分だけを言う)

母「まっしろなきれ」

27「ふわ」(語頭の部分だけを言う)

母「ふわって」「そらから おちてき」

28「た」(語尾の部分だけを言う)

母「ミシン カタカタ」「わたしのワンピースを つくろうっと」「ミシン カタカタ ミシン」

29「カタ」(語頭の部分だけを言う)

母「カタ」「できた できた」「ラララン ロロロン」「わたしに にあうかしら」「おはなばたけを
さんぼするの」

30「だあいすき」(ことば全部を言っている)

母「あれっ ワンピースが はなもようになっ」
「ラララン ロロロン」「はなもようのワンピース」
「わたしに にあうかし」

31「ら」(語尾の部分だけを言う)

母「わあ あめが ふって」

32「きた」(文末の言葉を言う)

母「あれっ」「ワンピースが みずたまもようになっ」

33「た」(語尾の部分だけを言う)

母「ラララン ロロロン」「みずたまもようのワンピース」「わたしに にあうかし」

34「ら」(語尾の部分だけを言う)

母「くさのみって とっても いいにお」

35「い」(語尾の部分だけを言う)

母「あらっ」「ワンピースが くさのみもようになっ」

36「た」(語尾の部分だけを言う)

母「ラララン ロロロン」「くさのみもようの ワンピース」「わたしに にあうかし」

37「ら」(語尾の部分だけを言う)

38「アッア」(飛んで来た小鳥の場面を指さす)

母「ことりね」(と言ってあげる)

母「あらら ことが くさのみ たべにき」

39 「た」(語尾の部分だけを言う)

母「あらっ」「ワンピースが ことりのもようになっ」

40 「た」(語尾の部分だけを言う)

母「あれえ とんだ とん」

41 「だ」(語尾の部分だけを言う)

母「にじのもよの ワンピース」「とっても きれいだ」

42 「な」(語尾の部分だけを言う)

43 「アー」(にじの真ん中を、うさぎが飛んでいる画面を指さす)

母「ばーい ばーい ばーい ばーい」(と、それに応じてあげる)

母「ゆうやけもよのワンピース」「すこし ねむく なってき」

44 「た」(語尾の部分だけを言う)

母「ぐう ぐうってね ぐうぐうぐう ねんねした」(夜空を飛んでいるうさぎの画面、文字のない画面に文をつけて)

母「あっ お星さまも ひゅー」(流れ星の画面、文字のない画面に文をつけて)

母「おひさま おはよう」「あらっ」「ワンピースが ほしのもようになってる」「ラララン ロロロン」「わたしのすてきな ワンピース」「ラララン ロロロン ランロンロン」「おわり」

45 「オウチ」(せかい いち おおきな うち の絵本を要求する)

母「おわり」

46 「オウチ」(再度、要求する)

母「うん おいしい おいしいね」(M児の要求内容に気がつかない)

47 「だあいすき」(せかい いち おおきな うち の絵本 だあいすき と言おうとしているのか?)

Ⅲの3. 絵本「せかい いち おおきな うち」レオ・レオニ作 谷川俊太郎訳 好学社 1969年

48 「オウチ」

母「おうちがいいの」(と、せかい いち おおきな うち の絵本を手にする)

母「はい」(と、絵本をひろげる)

母「おうち」(中表紙)

49 「オウチ」

(キャベツが中央に大きく描かれ、そこに、かたつむりが5匹いる)

母「おうちがありました」

(キャベツが中央に大きく描かれ、そこに、かたつむりが2匹いる)

母「ねー ちびかたつむりが かたつむりのおじさんにききました」

(左から右へ、大きく描かれたキャベツに、子どものかたつむりが1匹いる)

母「ねー」(と、絵だけを見せる)

(右から左へ、大きく描かれたキャベツの左の端の方で、子どものかたつむりが、大きくなり始めている)

母「おおきなかたつむりのおうちねー おおきいね」

(キャベツの葉の上で、子どものかたつむりが、左画面いっぱいになくなっていく)

母「ああ おうちが大きくなっちゃった」「おうち」

(子どものかたつむりは、右画面の方まで大きくなっていく)

母「まほちゃん おうち ほら あっ まほちゃん おうちみて」

(見開きの画面いっぱい、かたつむりのからの部分が描かれている)

母「はい おおきく きれいになっちゃって」

(かたつむりの上を、ちょうちょうが飛んでいる)

母「ちょうちょうたちが とんで きた。ねえ おうち」

(左画面にキャベツの葉の上のかたつむり、右画面に5匹のかえるが描かれている)

母「う〜ん おはながでてきた」(と、鼻水をふいてあげる)

IIIの4. 絵本「いない いない ばあ」松谷みよ子・文 瀬川康男・絵 童心社 1967年

母「はーい」「くまさん」(絵本を手にして、表紙部分をM児に見せて)

(ページ1 中表紙)

母「ちゅうちゅうって」

50「チューチュー」

(ページ2・3)

母「にゃあにゃが ほらほら いない いない……」

(ページ4・5)

51「ばあ」

母「あっ あった」

52「イナイ イナイ」

(ページ6・7 M児は手でくまの絵を隠している)

母「くまちゃんが ほらね いない いない……」

(ページ8・9)

母「ばあ」

母「うん ばあ ああ かくしてんの」(M児は手でくまの絵を隠している)

母「まほちゃん いない いない ばあ」「いない いない ばあ」

(ページ10・11 M児は手でねずみの絵を隠している)

母「こんどは チューチューが いない いない……」

(ページ12・13)

母「ばあ」

母「あった」

53「ウツ」(ねずみの絵を指さす)

母「うん ちゅうちゅう」

(ページ14・15)

母「こんこんぎつねも」

54「コンコン」(きつねの絵を手でさわりながら)

母「うん こんこん」(と、反復してやる)

55「コンコン」(きつねの絵を手でさわりながら)

母「いない いない……」

(ページ16・17)

母「ばあ」

56「コンコン」(きつねの絵を手でさわりながら)

母「こんこん」(と、反復してやる)

57「コンコン」(きつねの絵を手でさわりながら)

母「こんこんね」(と、反復してやる)

(ページ18・19)

母「のんちゃんが いない いない ばあ」

M児と母親が、右と左ののんちゃんを、手で隠したり、出したりしながらの、いない いない ばあ 遊びが続く。

母「いない いない ばあ」「いない いない ばあ」「ねえ」

58「エッ」

母「いない いない ばあ」「いない いない ばあ」「ばあ」「のんちゃん」

(ページ20)

母「おわ」

59「り」(ことばの語尾を言う)

IV. 遊び(12分)

家から、家の前の公園へ

IVの1. 丸木わたり

はじめ片手、その後、両手を母親に持ってもらいながら、丸木をわたる。

IVの2. ジャングル・ジム

横棒にぶら下がる。両足は地上から離れている。横棒をくぐるなどして遊ぶ。

IVの3. 遊覧バス

真ん中のあたりに座り、母親に揺らしてもらう。

母「どこまでですか」

60「ヒップ」

母「うっぶまでですか」(と、反復模倣する)

61「アニヤ」

母「ありゃ ありゃ」(と、反復模倣する)

母「どこまで行く まほちゃん」

62「ヒッピーヒヒン」

母「ひひんまで」(と、反復模倣する)

母「どこまで行くのかな」

63「ヒヒン」

母「はい着きましたよ」

64「ウウウン」(と、答える)

IVの4. 滑り台

階段登りを途中でやめ、滑る部分から登ろうとすることができずに、その途中から下に滑る。滑り降りた土の上で遊んでいる。

母「まほちゃん バイバーイ バイバーイ ママ 滑ってこようかな」(母親が階段を登る。M児は階段の方へ走って行き、母親の後を追って階段を登りながら)

65「イヤー」(母親が独自の行動をとるのをいやがる)

母「ママ下で押えられないもの」

66「イヤー」

67「イヤ イヤ イヤーン」(と言いながら上まで登り、そして、また、自分が先頭で、その後に母親が続いて階段を降りて来る)

IVの5. 高い雲梯

母親がかかえて、ぶら下がらせる。

母「まほちゃん はなすよ」(母が手を離すと、ぶら下がった状態で)

68「イヤー コワイ」

69「コワイ」(母は、また抱きかかえて、太鼓橋型の雲梯の方へ移動する)

IVの6. 太鼓橋型の雲梯

登り始め、一番高い所まで登り、母親に抱きかかえてもらって、降ろしてもらう。

IVの7. ブランコ

ブランコに座っている。母親に押してもらう。段々大きく揺れてくる。

考 察

語彙による発話は、1「イヤーン」、4「イヤーン」、19「イヤー」、20「イヤー」、21「イヤー」、65「イヤー」、66「イヤー」、67「イヤ イヤ イヤーン」、68「イヤー コワイ」のような拒否の意思表示が目立っている。これは、この時期が自分というものを強く主張する時期であることの反映であるように思われる。

喃語による発話も、2「アッ ウーン」、3「アー」、5「ウウン ウッ」、6「アッ ウーン」、7「アッ ウーン エー ウン」、8「アッ」、38「アッアー」、43「アー」、53「ウッ」、58「エッ」のような形でなされている。まだ、喃語と語彙を併用している。

喃語と語彙の中間に位置する発話、すなわち語彙の誕生の様子を示唆する発話も見られる。9「ムタ オッ」(おとうふ と言おうとしているのか?)、10「ミン」(みそ汁 と言おうとしているのか?)、12「ダアー」(大根 と言おうとしているのか?)、13「ダア ダ」(大根 と言おうとしているのか?)

IIIの1. 絵本「せかい いち おおきな うち」

では、大好きな絵本を楽しんでいる様子が、観察される。

IIIの2. 絵本「わたしのワンピース」

では、絵本の文章を覚えていく初期の過程が示されている。この様な過程を経ながら、やがて、一冊の絵本の文章全部を暗唱するまでになるのである。すなわち、文字を読むことができるようになる以前に、耳からの聴覚刺激によって、書きことばによる文章を身につけることができるのである。

IIIの4. 絵本「いない いない ばあ」

は、イナイ イナイ バー 遊びを、そのまま本にした絵本であるが、絵本は読むだけではない。ここで観察された様に、絵本を遊具にして遊ぶこともできるのである。

IV. 遊び

では、屋外での遊びになると、発話量は減少する。特に、

IVの1. 丸木わたり の様に、緊張を要するものには、発話そのものが抑制される。

IVの3. 遊覧バス では、60「ヒップ」、62「ヒッピーヒヒン」、63「ヒヒン」、64「ウッウン」などの様な造語が見られる。これもまた、喃語と語彙の中間に位置することばなのかも知れない。

文 献

- (1)藤友雄暉 「言語発達の縦断的研究(1)」 63-69頁 北海道教育大学紀要(第一部C) 第40巻 第2号 1990年
(本学教授 函館分校)